

## 2017年プラスチックなどの容器包装 より良いリサイクルと3R 『第14回市民・自治体・事業者の意見交換会 in にいがた』報告

**開催概要**：プラスチックなどの容器包装のより良いリサイクルと3Rにむけて、「第14回市民・自治体・事業者の意見交換会 in にいがた」を開催しました。

新潟市消費者協会の市民の皆様、新潟市環境部、新潟県消費者協会、2省、メーカーご担当者ら計51名の参加がありました。

新潟市環境部長 阿部眞也氏からご挨拶があった後、廃棄物対策課の登石課長からは、「新潟市における循環型社会に向けた取組み」ということで、10種13分別によるごみ回収と市民への分別周知の取組みについて報告がありました。

「おらって」にいがた市民エネルギー協議会の白井智雄氏からは、「新潟市の環境にやさしい生活の取組み」ということで、炭焼きから生ごみ処理まで幅広い普及啓発活動について報告がありました。

また、新潟市消費者協会新潟支部の前川幸子氏からは、「わたしたちの環境にやさしい買い物運動」ということで、オリジナルマイバッグ制作し、普及啓発活動によりレジ袋を削減したなどの協会の活動報告がありました。

事業者からは、「プラ容器包装・ペットボトル 3Rと環境配慮設計」ということで、プラスチック容器包装の性質、材質、機能、リサイクルと3Rの取組み、容リ制度、ペットボトルなどについて概要説明をしました。

また、グループごとの分科会では、分別排出・収集に関する問題、リデュース・リユース・リサイクル、海洋ごみ、環境に配慮した容器包装、環境教育や活動について、広い観点で活発な意見が交わされました。

**日 時**：2017年3月24日（金）  
**開催場所**：新潟市クロスパルにいがた 生涯学習センター 4階  
**参加者**：市民関係者 17名  
自治体/行政関係者 14名  
事業者 20名 計 51名  
**主催者**：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会  
**協力**：PET ボトル協議会

新潟市 環境部長 阿部眞也氏



新潟市環境部廃棄物対策課 課長 登石 瓦氏



「おらって」にいがた市民エネルギー協議会 白井智雄氏



新潟市消費者協会新潟支部 前川幸子氏



プラ推進協議会 専務理事 久保直紀



プログラム :

時間	内容
13:00~13:10	主催者挨拶:プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 会長 城端 克行 開催地代表挨拶:新潟市 環境部長 阿部 真也氏
13:10~13:25	自治体の取組報告 -新潟市における循環型社会に向けた取組み- 新潟市 環境部 廃棄物対策課 課長 登石 互氏
13:25~13:40	市民の取組報告① -新潟市の環境にやさしい生活の取組み- 「おらって」にいがた市民エネルギー協議会 白井 智雄氏
13:40~13:55	市民の取組報告② -わたしたちの環境にやさしい買い物運動- ~マイバッグを持ちましょう~ 新潟市消費者協会 新潟支部 前川 幸子氏
13:55~14:10	事業者の取組報告 -プラ容器包装・ペットボトル 3Rと環境配慮設計- プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事 久保直紀
14:10~14:20	***** 休憩・移動 *****
14:20~16:20	分科会 3グループごとに話し合い ペットボトルとプラスチック容器包装のリサイクルについて、日頃疑問に思うことや、問題点と感ずること、要望など事前にいただいたご質問も含めて、自由テーマで話し合い。
16:20~16:40	分科会まとめ報告
16:45	閉会挨拶

『リサイクル・3R・ペットボトルとプラ容器包装』に関して  
テーマを特に設けず、フリートーキングで、意見交換

略語: 市民=民、自治体=自、省庁=国、

事業者=事、ファシリテーター= F

進め方

1. はじめに自己紹介する。
2. 当日前半の市民・自治体・事業者の取組み報告や、容リ法等に関する意見、日頃からの疑問、提案、指摘事項などを、ポストイットに各自記載し、テーマごとに論点を整理し、論点ごとに適切な人が回答し、意見交換を行った。

第1グループ

参加者: 計 16 名

市民 : 5 名

自治体・国: 4 名

事業者: 7 名



1. 容リプラについて

F: 前半のセッションで「何が容リプラなのかが分かりにくい」との話がありました。

自：プラマークがついている容器包装を出してください。

事業者にリサイクル義務がある製品が該当します。

民：プラスチックごみはどこまで洗うべきか。

自：手で触れる事ができる程度まで洗って下さいと案内している。

F：「納豆の容器はリサイクルできるのか」との質問がありました。

自：水洗いされている場合はリサイクルできる。

事：スーパーマーケットの店頭回収の場合、洗われていない場合が多く選別が困難な為リサイクルできないと案内している。

民：子供の教育という観点からは、「後は誰かがやってくれるのだから、汚れたまま出しても構わない」との誤ったメッセージを送らないようにしてほしい。

## 2. 回収に関する事

F：「使用済み容器は自治体、スーパーマーケットのどちらに出せば良いか」との声がありました。

自：どちらでも良いがスーパーマーケットを優先的に案内している。

民：スーパーマーケットはいつでも回収に出せるので便利。

事：市町村とスーパーマーケットとではリサイクルルートが異なり、スーパーマーケットに出せば税金を使わない。

F：様々な生活スタイルがあるので、便利な方に出してもらえれば良いでしょう。

## 3. 3Rに関する事

F：市民は事業者のリデュースの取り組みを認知しているか。

国：国として軽量化や使いやすさなど、事業者の取り組みを市民に広く知ってもらいたい。実際プラスチック容器包装ごみの量は年々減少傾向にある。

事：賞味期限の延長や中身保護等プラスチック容器の利便性も理解いただきたい。

民：PETボトルや洗剤・シャンプー（詰め替え）等のリデュースについては認識しているがまだ認知度は低い。消費者協会では広報誌等で継続的なPRを行っている。

F：「プラスチック容器が何にリサイクルされているか良く分からない」との声を良く聞く。

事：容リ法では材料リサイクル 50% ケミカルリサイクル 50%

ケミカルリサイクル・・・高炉還元剤、ガス化等

材料リサイクル・・・パレットや車止め等だが約半分は産業廃棄物となっている。

## 4. 環境インセンティブに関する事

F：「マイバックの持参をもっと促すべき」との意見があったが。

民：新潟県のマイバック持参率は 82.9%。（消費者協会店頭調査）

F：環境に配慮した製品が購買に結びつくか。

民：事業者のメッセージと消費者の意が高い所で結びつかなければならない、そのためには発信し続ける事が重要。（エシカル消費）

商品に記載されている環境配慮の説明は簡潔にしてほしい。

事：環境マークが分かり易いが、沢山あり、マークの意味を知る必要があり、消費者啓発が重要。

## 5. 食品ロスに関する事

F：商品を購入するときに賞味期限を気にするか。

民：早く使うものは手前からとるよう啓発しているが、多くの方が奥から取られる。  
消費者教育が必要。

事：容器包装が賞味期限の延長や鮮度の向上に寄与している事を広く知ってほしい

民：小学校への出前授業も行っており賞味期限と消費期限の違い等について教えている。  
子どもの時から知識を得ることが重要で、親にも伝わりやすい。

## 6. 容器包装リサイクル法に関する事

F：新潟市では収集分別経費の合理化については何か取り組みをしているか

自：廃棄物減量推進委員に対する研修会や施設見学を積極的に行い、分別の必要性について啓発している。

民：プラスチックごみ週一回の方が保管するためにきれいにするので品質が良い。

自：収集日数に関してはニーズが異なるので実績を見ながら検討していく。

分別については市民意識も上昇していると認識している。

## 7. PET ボトルの代替に係る進捗に関する事

民：PET ボトル等を減らしてガラス瓶（リユース）を増やす国の施策は何かあるか。

国：生活様式の変化により、ガラス瓶の回収量は徐々に減っている。

小さい地域の中で回収を目指している。酒瓶等統一の規格で流通しているものもある。

F：輸送コスト等の問題もあるので、地域のコミュニティでリサイクル業者と連携して回収するのがベストではないか。

## 8. 海洋ごみに関する事

F：海洋ごみの発生量は中国、東南アジアからが多い。これらの地域では、ごみはオープンダンピング（野積み）されているため、台風や洪水等で海に流出してしまう。

APEC で支援してごみ処理の技術協力を行うなど海洋に行かないようにしている

民：生分解プラの場合は海洋への影響はどうか

F：海の場合、土の中ほどプラスチックを分解する微生物がないのと、温度が低いために分解が進み難い等の問題がある。

また、町のごみが川を通じて海に流れている事も認識してもらいたい。

## 第2グループ

参加者：計 14 名

市民： 4 名

自治体・国： 4 名

事業者： 6 名



### 1. 分別について

F：ごみの分別で困っていることは？

- 民：詰め替え用の液体洗剤を使用しているが全部使い切れず残ってしまう。また容器に貼られている紙ラベルについて綺麗に取れないものもある。プラ容器として資源ごみに出すときにどの程度まで徹底して剥がすべきか迷ってしまう
- 事：洗剤が多少残っていてもリサイクル工程で洗浄、脱水するのでリサイクル自体には特段影響はない。紙ラベルはあまりに多いと工場に埃が溜まってしまい火災の原因になってしまう等の不都合な点も出てくる為、極力取ってほしいがリサイクル自体に特段問題はない。
- 自：洗剤用の容器については水で洗ってほしいが乾かさなくても良い、紙ラベルについては極力取ってほしい。食品残渣等で汚れが酷い容器は燃やせるごみに出してほしいと言っている。
- 事：リサイクルの手法によって分別ルールも異なってしまうので、リサイクル出来る、出来ないという基準で分別ルールを統一すべきでは。
- 事：リサイクル出来る、出来ないという基準は、事業者より開示しているのか。
- 民：乾かさなくてもよい、洗剤が多少残っていても問題ないとは初めて聞いた。
- F：拡大解釈をしてもらっても困るが、それほどリサイクル工程では問題になっていない。
- 自：当市の分別百科事典で、分別ルールを公表しているので確認してほしい。
- F：リサイクルの技術論が分からないと、市民の方々はきちんと綺麗にしないといけないと思っている。市民の理解度も異なるので、事業者の声を良く聞いて一定の基準を考える必要がある。
- 自：行政側では異物が多いとリサイクルの純度が落ちてしまうと考えているので、市民の方々に対しては、綺麗にしてほしいと伝えている。
- F：汚れは仕方ないが食品が残っていると衛生的な問題が出てくる。排出されたものがリサイクルセンターまでに行くのに2週間程度かかっており、食品残渣が残っていると、物流の際に臭い等の衛生的な問題が出てしまう。
- 民：プラスチック容器を排出するときに細かく切って出してよいか。
- 事：リサイクル工程では、一般的に10cm以上の大きさがあれば選別もできるので大丈夫。最終的に2cm程度に粉碎される。
- F：材料リサイクルになると半分がリサイクル不適合品になってしまう。不適合品は固形燃料やセメント燃料にまわっている。ケミカルリサイクルになると再資源化率が高くなる。

## 2. プラマークについて

- 自：プラスチック容器とプラ製品の分け方としてプラマークを目印に分けているが、白色トレーの刻印の様に、製品によってはマークを見つけにくいものもある。
- 事：白地に刻印は見えにくいとは認識していなかった。
- 自：市民の意見とマークを表示するコストのバランスが必要。印刷する、色を付ける、フィルムを貼るとコストが掛かってしまう。どのように折り合いを付けていくか、事業者の工夫でやってもらっている。
- F：カップラーメンのマークは蓋に付いている場合がある。食べた後、分からなくなる場合もあるが、法律では一括表示として認められている。
- 自：マークを探すのに非常に苦労してしまう。
- 事：一括表示は分かりにくい面もあるが、メーカー側の要望として一括表示を認めてもらった。一つ一つの容器のパーツにマークを付けようとするの大変。
- 事：容器の素材も、容器の機能の多様化と共に複雑になってきている。容器に対する消費者の要

望を追っていくと、表示が難しくなってしまう。

F：容器の製造事業者は中身を入れる事業者との関係もあり、マークを独断で入れることが出来ない場合もある。マークの誤表示もある。中身が商品の容器が容り法の対象であり、ごみを入れる袋、クリーニングの袋等は容り法の義務対象ではない。分からなかったら製造事業者にお問い合わせを行えば、しっかりと対応してくれる。

### 3. プラスチック容器について

民：洗剤の詰め替え商品を使っているが、パッケージのデザイン変更の頻度が多く、直ぐに変わってしまって、購入時に混乱する。

事：香り違いの製品も出てきており、売れ筋商品以外は早く変わってしまう傾向にある。現在、詰め替えパウチ商品の支持率は80%になっている。経済的、環境的にメリットがあり指示されている。パウチ商品になると、容器のプラスチック重量が10~15%程度と環境負荷も少ない。一方で製品の品種も増えているので選ぶときに苦労するという問い合わせはよくある。

事：本体のデザインを見て、詰め替え商品を買おうとしても買えない。

事：ブランド名と商品名が同じという判断で買って頂きたい。日用品は表示を見ずに買ってしまいう傾向があるので難しい。

### 4. 店頭回収について

民：スーパーによって店頭回収している食品トレーの品目が異なるのはどうしてか。

F：回収された容器はトレーメーカーが引き取っており、引き取った事業者のリサイクルのやり方、また小売店の店頭回収に対する考え方によって回収品目が変わっている。小売店でも分別、回収ボックスの管理等でコストが掛かっており、消極的な事業者もいる。

事：トレーメーカーは引き取った後、トレーメーカーが責任を持って、専門の事業者に委託等してリサイクルを行っている。引き取り後のリサイクルに掛かる費用はトレーメーカーが支払っており、多額な費用が発生している。

事：材料リサイクルでは単一のプラスチック、ケミカルリサイクルでは色々なプラスチックがリサイクルできる。小売店の考え方とリサイクル手法を組み合わせるリサイクルを行っている。

事：回収したプラスチック容器の処理には、お金が掛かってくるが、店頭回収を積極的に行えば小売店にとって集客効果に繋がるというメリットもある。コストと効果の両面があるので小売店の考え方によって取り組み姿勢は変わってしまう。

F：消費者が声を上げることにより、小売店の考え方も変わってくると思う。

### 5. ごみの排出について

民：ごみの焼却時にプラスチック製品が混ざっていた方がよいと聞いた。

自：焼却炉の方式もあるが、新潟市ではわざわざプラスチック製品を入れる必要はない。分別して資源化できるものは、資源化していく方がよい。

F：新潟市の焼却炉では助燃材的にプラスチック製品を入れる必要はない。

### 6. レジ袋削減について

自：レジ袋削減に関して、消費者、事業者はどう考えているか。新潟市ではレジ袋の削減率が上がりにくくなってきている。意識が高い人は出来ているが、意識が低い方にどうやって取り

組んでもらうかが課題と考えている。

民：男性や若い人達への広がりがないので、その部分を集中的に啓発していくのはどうか

F：レジ袋の有料化については、大手スーパーマーケット、生協はやっているがコンビニはやっていない。これ以上に業界の意思統一は難しい。また何をやっても響かない消費者に対しての啓発についてもこれ以上は難しいのでは。

自：現状、新潟市のレジ袋の辞退率は40%程度。

F：レジ袋はスーパーで配られる袋のみか、その他小売店の袋はどうかなど、定義が解釈によって異なるため、確認する必要あり。

自：地域で一緒に推進する団体と協定を結んで取り組みを進めては。

自：協定については開始当初より広がっていないので、参加団体を広げていくことも課題として考えていきたい。

## 7. 啓蒙活動について

F：行政にもっと発信してほしいことはないか。情報発信の仕方についてはどうか。

自：新潟市では、サイチェプレスという新聞折込を活用して、ごみの情報を年5回発信している。繰り返し伝えることが重要と考えている。出前授業や焼却施設の見学等も継続的に行っている。

F：容器包装団体では市民リーダー育成事業という取り組みもある。市民リーダーの希望者を募って、リーダーにごみの分別等の勉強をしてもらい、地域の取り組みに広げてもらっている。また若者、外国人、単独世帯向けの啓発活動、市民参加型の催しを行うことも重要。

F：容器包装の環境配慮とは、環境配慮型設計は消費者に支持してもらえるか。

事：缶の時代、PET ボトルは高価、充填しにくいことで事業者は缶を売ってたかったが、消費者のニーズは変わり、PET ボトルに切り替わった。消費者の選択はメーカーに多大な影響力を及ぼす。消費者の力はメーカーや社会も変えることができる。

F：最終的には決めるのは消費者。環境負荷が少なくても売れなかったら作らない。

自：一市民として製品の価格は外せない。詰め替え商品になると価格と環境面が両立されており、受け入れやすい。

F：消費者が接する事業者は、主に小売業者で、消費者に製品の思いを伝えるのも小売業者になってしまう。しかし、製品に対する思い入れは、小売り事業者と製造事業では違うので、両方の意見を聞いてほしい。

事：メーカー側として環境出前授業や小売店主催のエコ博に参加したり、独自の環境マークを製品に付けたりして、性能だけではなく環境面の思いを伝える努力をしている。市民も正しい情報を求めている。

事：製品を作るとき、安全安心が第一、次に形やデザイン、またどういう機能を持たせるか、更に環境配慮という観点まで広がってきている。最終ユーザーの意見がどこに向かっているか見定めていくことは必要。

民：過剰包装は減っているかと思うが、再度確認して製造事業者や小売店に意見を出していく必要があるのではないか。

F：過剰包装の削減について生産者側も非常に努力している。小売の現場では生産者の努力とは関係なく、売れる商品が支持される。消費者の皆様には生産者の努力等、色んな情報を聞いてほしい。

事：洗剤では大きい製品もあれば、小さい洗剤もある。技術の進歩で洗浄力も価格、使う回数も同じレベルになってきた、小さい製品を選べば、物流効率が良く環境負荷も小さい、また家庭での置き場のスペースも少なくて済む。どのようにしたら消費者にうまく伝えることができるか考えている。

### 第3グループ

参加者：計 17 名  
市民： 6 名  
自治体・国：4 名  
事業者： 7 名



#### 1. 3R（リデュース・リユース・リサイクル）について

F：リユースについて特にご意見が多くあるようです。

民：ビンの宅配牛乳は何故作ってくれないのか。

事：ビンは重い、危険、価格高い。また、中距離運搬でのCO2排出量増加の問題もある。

民：リサイクルは対症療法ではないか？健康的な体質を作るうえでもリデュース、リユースをやる

民：ビン入りの牛乳の方がおいしい。

べきである。

F：3R推進8団体では、ガラスビンはリユースできるが、他のペットボトル等7素材はすべてリユース不可である。これは事業者が安全性の確保を得るための判断です。

民：醤油の例では、1ℓや1.8ℓビン容器入りの製品とほぼ同等の値段で小容量のポリ容器入りの製品がスーパーでは並んでいる。

民：産学協同でマイボトルキャンペーンを進め、容器包装の削減、リデュース、リユースの目を伸ばしたい。

事：リデュース、リユースも重要であるが、リサイクルはもっと重要である。日本には資源がないのでリサイクルしないとイケない。

F：EUやUSAでは、日本に比べて埋め立てが多い。

自：リサイクル率の全国調査（人口50万人以上の都市）で新潟市は、平成26年度は27.8%で全国第2位であった。さらにリサイクルを強化していくとともに、リデュース、リユースの取り組みは、産学協同で進めなければならない。

民：3Rの優先順位が重要で、捨てるものは買わない。作る人が責任を持って処理をEUのように拡大生産者責任で行うべきである。

#### 2. ペットボトルの排出について

F：日本におけるペットボトルのリサイクル率は約85%で、米国の約4倍、欧州の約2倍と高い。

民：日本では、ペットボトルの使用量が海外に比べてかなり多いのではないかと。

F：ペットボトルの販売量は、人口比で日本と比較すると米国は約2倍、欧州は約1.5倍であり、日本でのペットボトル使用量は決して海外に比べて多いとは言えない。むしろ少ない。

民：ペットボトルの生活はいかがなものか？ペットボトルの製品を買わないようにしている。



民：ペットボトルのリユース化はできないのか。

F：ペットボトルのリユースについては、国（環境省）もペットボトルのリユースは環境負荷からみて地域限定ならば可であるが、安全衛生性の観点を加えると実質的にできないと理解したと  
思っている。

民：確かに、日本人はペットボトルに濁りがあつたり、傷があつたら買わないと思う。

事：消費者に対して安心して安全なものを届けるように努めている。

事：環境負荷については、ペットボトルを薄くしてCO<sub>2</sub>排出量を下げる努力をしている。

F：日本では、ペットボトルの販売量よりも回収量が多くなっているのは何故でしょうか。

民：海外からの輸入品ペットボトルが加算されるからではないのか。

F：輸入品は販売量に合算されています。ペットボトルの胴ラベルと樹脂キャップと一緒に混入して回収されるためである。販売量よりも回収量が多いという状態は、欧米にはなく、消費者、自治体の役割分担がしっかりと根付いてきたと考えており、容リ制度の成果と思っている。

### 3. ごみの分別排出などの問題について

F：ごみ問題は、高齢化社会、環境問題、資源効率性、政策的部分などを背景にして検討し、消費者の協力が必要となる。

民：ごみにするのか、リサイクルするのか、どちらが環境にやさしいのか、リサイクルに頼る生活は良くないのではないのか。トレーに入れたり、ペットボトルに入れるのではなく、欧州でやられているような量り売りを進めたい。

事：ドイツでのリターナブル品は、年々減少している。20年前とはずいぶん状況が変わっている。

民：リサイクルは対症療法なので、現実に出てくるごみの量を減らすべきである。

自：対症療法を我々はやっているのか？病気を元から治すようなことをしなければいけない。風邪をひかぬよう、その前に健康になるような生活をしなければならぬ。ごみになるものは、買わないというようにならないといけぬ。

事：容リ法ができて20年経ったが、家庭での分別の改善が見られない。ソーティングシステムを見直すべきである。5t処理より100t処理の方が効率が良い。

事：高齢化社会では、日本の細かな分別は無理である。医療系のごみが増えるので透明なごみ袋が良い。また、高齢者用の小型容器も増えている。

自：昔は透明なごみ袋が多かった。中のごみが見えないのは危険で、串や水銀などが混ざっている。

民：ごみは資源か？の感覚を持っていないのが問題である。日常生活の中でどのくらい利用されているかのリサイクル情報がないので、リサイクルの情報を伝える教育をしてもらいたい。

自：分別すればするほどコストアップとなる。

民：ごみの分別方法が煩雑である。ごみの分別処理で日本の高度な良い技術があるのではないか？

事：採算性でのコスト問題がある。低コストであれば良い。

### 4. その他情報

民：海洋ごみ（プラスチックマイクロピース）が、生態系へ影響を与える可能性があり、現在大きな問題となっている。

自：スーパーでは、プラ袋を2~5円で提供している。マイバッグ運動を進めているが、若い人はマイバッグやマイボトル・カップを持っていない。

## <ファシリテーターまとめ>

### ・分別排出について

容器法では、プラスチック容器包装のリサイクルの対象品目は、プラマークが付いている容器・包装で、自分が素手で触れる程度、臭い等が出ない程度に洗えば良い。但し、子供達に「ごみ処理場の人がきれいにしてくれるから、汚れたまま出しても構わない」との誤ったメッセージを与えてはいけない。

### ・回収ルートについて

使用済み容器をリサイクルに出す際は、市町村でもスーパー等の店頭回収のどちらでも構わない。自分のライフスタイルに合わせて選択すれば良い。

### ・リデュース、リユース、リサイクルについて

詰め替え製品の普及等、リデュースについてはある程度認識しているが、まだ消費者の認知度は低い。リサイクルしたプラスチック容器がどんな製品になっているのかが一般には分からない。

### ・海洋ごみについて

町でポイ捨てしたごみが、川を通じて海に流れ、海洋ごみになっている事を認識してもらいたい。

### ・3Rやごみ問題全般について

今回は、議論が多岐にわたっており、参加者の環境意識も高く、本質的なテーマが多かった。ライフスタイルをどう考えるか。データベースを参考に。過去は過去、現在は現在、未来は未来で割り切って、やっていかなければならない。

ペットボトルのリユースについて3R推進団体連絡会では、ガラスビンのリユース出来るが、それ以外のペットボトルなど7素材は、製品を消費した後の衛生安全の面から、リユースでは品質保証できないとの見解から、リデュースとリサイクルを中心に3R活動を推進している。

また、リサイクルは対症療法であり、リデュース、リユースに絞って根本的な解決をすべき、との意見が出された。しかし、ごみを減量することは重要であるが、実際に出されたごみへの対応としてリサイクルする必要があるとの意見もあった。

なお、ご要望があれば、消費者協会等への出前授業ができるので、ご活用頂きたい。

## 全体のまとめ

今回の意見交換会は16回目だが、参考にできることがあったと思う。これを機会に中身メーカーや小売業者、容器メーカーに声をかけて頂きたい。製造者としての事業者の意見を聞いて頂ければよりご理解頂けるし、有難い。今後、声をかけて貰えば、出前授業等出向いてきます。 以上

